特集　未来のために私たちができるSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

未来のために私たちができるSDGs（エスディージーズ）

SDGsと聞いて「難しそう」、「具体的に　何をしたらいいの」と思っていませんか。
私たちの生活の中には、SDGsに　つながる取組がたくさんあります。
今も、そして未来も誰もが安心して過ごせるよ　うに、“私にできること”からはじめてみませんか。

5 ジェンダー平等を実現しよう
性別で決めつけるのをやめよう

・家事や仕事は偏りなくみんなが納得のいく分担をしましょう

12 つくる責任 つかう責任
買いすぎない作りすぎない残さない

・食材や食品は、必要な量だけを買いましょう
・食べ切れる量を作り、残さず食べましょう

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
～限りある資源をみんなのために～
節電を心がけよう

・明るい時間帯は電気を消しましょう
・LED電球を使いましょう

13 気候変動に具体的な対策を
～地球温暖化を防ぐために～
二酸化炭素の排出を減らそう

・クールビズやウォームビズで冷暖房器具の使用を抑えましょう
・電気自動車を利用しましょう

3 すべての人に健康と福祉を
からだを大切にしよう

・毎朝ラジオ体操をしましょう
・自転車や徒歩で通勤しましょう

14 海の豊かさを守ろう
海のごみを減らそう

・海洋プラスチックごみを増やさないようマイバックやマイボトルを利用しましょう

11 住み続けられるまちづくりを
みんなが暮らしやすいやつしろにしよう

・清掃活動やボランティア活動など地域の活動に参加しましょう

15 陸の豊かさも守ろう
森林や生態系を守ろう

・植林活動や森づくりに参加しましょう

SDGsってなんだろう

みらい君：最近、テレビや新聞で「SDGs（エスディージーズ）」ってよく耳にするけどよく分からないな。いったいどんなことなのか知りたいな。

まもる先生：「持続可能な開発目標」のことだよ。これからの地球のために、とても大切な目標のことなんだ。みらい君、このままのペースでみんなが資源をたくさん使ったりごみを捨てたりするとどうなると思う？

みらい君：環境が悪くなったり、食べ物が足りなくなったりすると思う。

まもる先生：そのとおり。このままだと安心して地球に住めなくなってしまうよね。今、地球で暮らしている私たちはもちろん、未来の子どもたちも地球で安心して暮らせるために何が必要なのかを、世界中のみんなで話し合って同じ目標を立てたんだ。それがSDGs「持続可能な開発目標」だよ。2015年に国連サミットで採択されたんだ。

みらい君：そうなんだ。すごく大切な目標のことなんだね。でも目標ってどんなものがあるの？

まもる先生：「海の豊かさを守ろう」や「飢餓をゼロに」など全部で17の目標があるよ。その目標を達成するために169のターゲットがあって、2030年までに達成することを目指しているよ。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っているんだ。

みらい君：すごくたくさんの目標があるんだね。今はどのくらい達成できてるんだろう？

まもる先生：日本は3つの目標を達成し2022年は世界で19位の達成度だよ。達成していない目標の方が多くて、特に「ジェンダー平等」や「気候変動対策」など5つの目標が最低評価で、課題は山積みなんだ。

みらい君：まだまだたくさんの問題が残っているんだね。僕にも何かできることはあるのかな？

まもる先生：たくさんあるよ。例えば、ごみを拾うことや、地元の食材を使うこともSDGsなんだ。普段何げなくしていることの中にも実は地球のためになっていることがあるんだよ。

みらい君：そうなんだね。僕にもできることを探してやってみよう。

SDGsはSustainable Development Goals（サスティナブル ディベロップメント ゴールズ）の略で、「持続可能な開発目標」のこと

SDGsに取り組む八代の企業・団体を紹介します

地域の持続的発展のために 西田精麦株式会社

精麦事業をはじめ、飼料製造、麦製品の開発・販売を行っている西田精麦株式会社（新港町）は、SDGsにつながるさまざまな取組を行っています。

①地域農業支援

地元熊本の大麦などを買い入れることで地域農業の活性化につなげています。また、消費者が求める麦の品種などを生産者に伝えることで、さらなる需要と供給の拡大につなげています。

②商品の有効活用

商品の入れ替えなどで余剰が出たものを、被災地や外国人実習生への支援として提供する他、フードバンクなどに提供しています。

③出前授業

小学校や高校などでSDGsの取組に関する出前授業を無償で行っています。

エコバックやバイオパッケージを使用した商品の開発に携わっている社員の皆さん
2列目左から、鶴田紀真さん、萩平誠也さん、堀天祐さん
1列目左から、上田美由紀さん、下山加良子さん

④エコバック

改版で不要となった飼料用紙袋（かみぶくろ）をアップサイクルし、エコバックとして利用しています。

⑤バイオパッケージ

パッケージの一部に環境に配慮したサトウキビなどの植物由来の原料を配合したフィルムを使用しています。また、ペットボトルをリサイクルした素材で作られる包装フィルムなども使用しています。

⑥途上国支援

途上国でハトムギを生産・加工することで現地の雇用を促進しています。また、生産したものを全て買い取り、生産者の収入を安定させるフェアトレードにも取り組んでいます。

これらは社員の声から事業化された取組です。さまざまな部署の社員が携わって進められており、「これができたらいいね、と言っていたことが1つずつ増えていき、気付くとSDGsの目標の取組につながっていました」と話します。

途上国の人たちや、関連企業などと一緒にみんなでSDGsに取り組めること、社会貢献をしながら、生産者や商品を手にした人に喜んでもらえることがやりがいとのこと。今後は、SDGsの普及も行いながら、さらなる地域の持続的発展のために貢献していきたいそうです。

暮らしやすいまちを目指して やつしろインターアクトクラブ

やつしろインターアクトクラブは、地域社会貢献を目指した活動を行う団体として令和2年に発足し、八代高校・中学校の生徒約90人で活動しています。同クラブの活動は、SDGsの17の目標のうち、「⑪住み続けられるまちづくり」、「⑮陸の豊かさも守ろう」に当てはまります。

私たちは、毎月第一日曜日の清掃活動の他、イベントへの参加や小学生と一緒に花の苗を植えるなど、さまざまな活動を行っています。

清掃活動は、入学式の前は学校周辺を、地域から要望があればその場所を、と自分たちで必要と思う場所を会議で決めて行っています。

せせらぎ水路を清掃するやつしろインターアクトクラブのメンバー（6月12日実施）

やつしろインターアクトクラブ会長（八代高校3年）
冨（とみ）　若奈（わかな）さん

代陽小学校裏のせせらぎ水路の清掃は設立当初から続けていて、水路の横に2カ月かけて自分たちで育てたマリーゴールドなどを植えています。水路を清掃するだけでなく、もっと美しい場所にするために、花の種類や配置も自分たちで考えながら行っています。訪れた人に「きれいだな」と思ってもらえるとうれしいです。

このクラブでは、住んでいるまちにどのような問題があり、どう解決すべきかを考えて活動内容を決めています。まちのことを考えて行動することが、暮らしやすいまちにつながるのではないかと思います。

インターアクトクラブは市内の他校にもありますが、新型コロナウイルス感染症の影響で交流などができていません。今後は他校のクラブと合同での活動を企画し、暮らしやすいまちにつながる「私たちにできること」を考えていきたいと思います。

八代市は「SDGs未来都市」に選定されました

市ではこれから3つの取組を中心に進めていきます

「SDGs未来都市」とは、地方公共団体によるSDGsの達成に向けた取組を提案する自治体を内閣府が選定するものです

1.SDGsモデル事業（SDGsフードマッチングプロジェクトの取組）

■ビジネスマッチングによる高付加価値化促進事業

八代地域の特産品生産者、加工業者、販売会社のそれぞれの強みを活かし、各企業をマッチングさせた新商品開発・高付加価値化を促進します。

【取組の効果】
- 本市の特産品「八代生姜」の高付加価値化を目指してアルコールの新しい飲み方を企画・開発した県内企業と連携し新たな雇用を創出します。

■もったいない食品利活用推進事業

食べる予定のない食品を持ち寄り、必要とする人たちに提供するフードドライブや、廃棄される食品の有効活用のためのマッチングなどを推進します。

【取組の効果】
- 食品ロスの削減と環境への負荷を減らします。
- 未出荷や売れ残りなど、廃棄に回される食品の好循環を形成します。

■貨客混載（かきゃくこんさい）による買い物支援事業

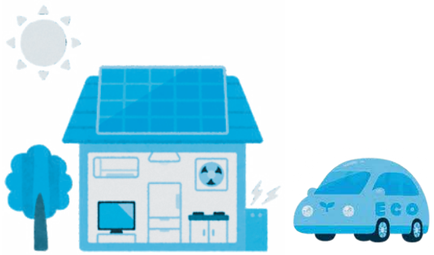
山間部などの交通空白地域で、タクシーなどを利用した乗客が用事を済ませる間に、運転手が代わりに買い物を行い、帰りに乗客と品物をまとめて運ぶことで買い物を支援します。

【取組の効果】
- 地域における収益の確保
- 過疎地域住民の利便性向上
- 貨客混載の効率的車両運行によるCO2排出量の抑制

2.普及・啓発事業 SDGs宣言制度の創設など

SDGsに積極的に取り組む事業者などが宣言を行うことで、社会貢献企業としての地位確立と認知度向上を図ります。また、これらの企業同士がつながることで、先進的な取組を市内全域に普及していきます。

さらに、シンポジウムなどを開催し、意識啓発を図ります。

3.カーボンニュートラルの実現に向けた主な取組

再生可能エネルギー導入目標などの策定を行います。また、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、公共施設などに太陽光発電設備や蓄電池を導入し、緊急時の対応力の向上を図るとともに再生可能エネルギーへの転換により環境負荷を低減していきます。